

「クリスマス」

今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった。ルカ福音書 2:11

クリスマスとは、このことである。

このたった一つのことである。

「今日」、私たちは、救い主が生まれたという最高の知らせを聞く。

今日とは、何とすごい日だろう。

悔いの多い、または誇らしげに過ぎ去った日々ではない。

♪明日がある、明日がある、明日があるさ♪と歌っても、明日があるかどうか、私たちに
は分からない。

でも、今日は私たちに与えられた日である。今日にはすべてが詰まっている。冬の寒さ
も、コロナの重苦しさも、うれしいことも、苦しいことも。そんなもろもろのことに覆い隠さ
れてはいるが、耳を澄ませば「今日、救い主が生まれた」と告げる天使の声。

その声を聞くなら、時間の中であって今日、永遠への扉が開かる。

「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、

心をかたくなにしてはならない」へブル 4:7

「あなたがたのために」救い主が生まれた。

この「あなたがた」に入っていない人もいるのだろうか、ルカ福音書 2 章 10 節、11 節を読み返してみた。

天使は言った。「恐れるな。わたしは、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。

今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」

「すべての民に与えられる大きな喜び」とは、「救い主がお生まれになった」ことである。

しかしここでは「すべての民のために救い主がお生まれになった」と言わないで、「あなたがた(直接には羊飼いの)のために」と言われている。

そうか、救い主はすべての民のためではなく、あなたがたのために、私たち一人一人のために生まれてくださったのだ。

しかし、この「あなたがた」からもれる人は一人もいない。救い主の誕生は、すべての民に与えられる喜びなのだから。そうか、このクリスマスの喜びからもれる人は一人もいないのだ、その人が何を信じていようと、良い人でも悪い人でも、泣いている人にも笑っている人にも、「クリスマスおめでとう！」と声をかけていいのだ。今はマスクをしているから都合がいい。ほんの小さな声で、道行く人にも、一人一人に心込めて言おう。「クリスマスおめでとう！ 今日、あなたのために救い主がお生まれになりました」と。

「救い主」とは、助け主である。私たちはみな、誰かに助けられて生まれてくる。だが、死ぬ日に助けてくれる人はいない。死に逝く人を誰も助けることはできない。まして、死んだ後の世で誰が助けてくれるだろう。

私たちと同じように、捨てられて助けなく十字架の上で死なれ、神によって三日目に復活させられたイエス、このお方だけが私たちを助けて下さる。

地上であなたを愛していなければ、

天で誰がわたしを助けてくれようか。詩篇 73:25

この詩編の言葉もキリストを証している。

主をたたえよ

日々、わたしたちを担い、救われる神を。

この神はわたしたちの神、救いの御業の神

主、死から解き放つ神。 詩編 68:20-21

.....

マタイによる福音書 1:18～23「イエス・キリストの誕生」から

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフ

は正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

なんとリアルな文だろう。イエス・キリストがお生まれになるのに何の造作もない。

あったのは母マリアと婚約中のヨセフ、二人の素直な心だけだった。

このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

神は神であり給う。その神なるキリストが、普通の人として生まれ、普通の人として

私たちの間に住まわれるために、普通の娘マリアの胎に宿られた。「人にはでき

ないが、神にはできる。神は何でもできるからである」マルコ 10:27 とあるが、神

のなさり方はいかにもシンプルで、人の好む飾りや華やかさはなにもなかった。

あったのは、マリアとヨセフの、神を神として生きる従順だけだった。

イエスは星の光のように、手の届かない遠くにあって光っているのではない。私たちのあこがれや理想を呼び覚ます彼方の光ではなく、自分が何者であるかもわ

からず混乱と悲惨をくりかえす私たちの暗さに分け入って、その暗さである思い
煩いをすべて引き受けてくださり、私たちを明るくしてくださる。「この子は自分の
民を罪から救う」という御言葉は、信じる者の日々の現実となる。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

冬枯れの野道を歩くと、畑にいる人、センダン草やススキ、近くの大きな病院も、
すべてが明るい。主の慈しみにつつまれている。

クリスマス！

人となってこの世に来られた神、イエス様がここにおられる。その明るさが、畑を
耕している人、犬の散歩をしている人、閉じられた病室にいる人、すべての人を
包んでいる。「夕暮れになっても光がある」ゼカリヤ書 14:7

わたしたちと共にいてくださるイエス様の明るさ。

今日、天使たちが告げ知らせる大きな喜び。